

舞鶴湾での麻痺性貝毒プランクトン調査

当センターでは、安心・安全な海産物を提供できるよう、カキ類やトリガイなどの二枚貝類の貝毒^{*}に関する調査研究を実施しています。

二枚貝類に蓄積される毒量は、エライザ法と呼ばれる検査を定期的に行うことにより迅速に把握できます。二枚貝類は有毒プランクトンを餌として摂取することで毒化するため、内湾域での有毒プランクトンの出現状況等を調べることも重要です。特に、水温が低下する冬季には、プランクトンの持つ毒量が高くなる傾向がみられることから注意を要します。

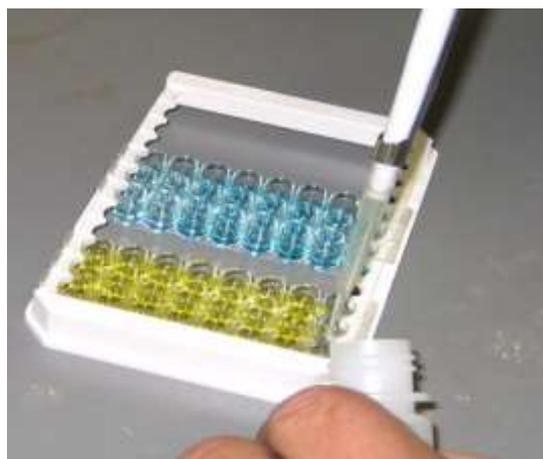
1 月 9 日には、二枚貝養殖が盛んな舞鶴湾で麻痺性貝毒プランクトンの発生状況を調査しました。その結果、毒化の原因となるプランクトンは少なく、近々に貝毒が増加することはないと考えられました。

今後も、他の内湾域を含めて定期的なモニタリング調査を実施し、安心・安全な二枚貝類の提供を支えていきます。

※ 貝毒：二枚貝が餌として有毒プランクトンを食べることで毒素を一時的に蓄積すること。基準値を超える毒量を持つ二枚貝を食べた人は、中毒症状を起こすことがある。



麻痺性貝毒プランクトン
Gymnodinium catenatum



エライザ法（麻痺性貝毒を短時間で検出できる簡易キットを用いた検査法）による検査